

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103961
法人名	有限会社やわらぎ
事業所名	グループホームやわらぎ
所在地	愛媛県松山市枝松6丁目7-12
自己評価作成日	H22.8.31

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

月に1回お弁当の日(手作り)を作り、実施している。今年度より、事業所内で定期的に講師を呼んで研修を行っている。又、利用者家族にアンケートを配布しより良い関係作りに活かす予定。(10月頃の予定)今年度より、月行事の担当を作り、外出や外部の方との接触が行える様に計画・実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者は「リーダー会は、日頃の悩みを聞いてもらったり相談できるよい機会」と話しておられた。外部研修に新人職員も参加され、認知症について勉強したことがきっかけで、ヘルパー2級の資格を取得することを決めた職員もいた。法人は職員の研修受講に積極的であり、費用面も協力してくれるようになっている。

介護計画内の家族欄に、混乱を恐れて「あまり外出させないように」と要望される方もあったようだが、ご家族も一緒に外出する等、様子を見ていただきながら話し合い、理解を得られるように取り組まれた。ご家族の中には、ベッドからの転倒を気にされて「ベッド柵を付ける」ことを要望される方もあるが、事業所では、利用者の行動等を把握しながら、職員の見守り対応できることを伝え、夜間寝ている間だけ柵を付けることで理解をすすめていかれた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 有限会社 やわらぎ

(ユニット名) グループホームやわらぎ(1階)

記入者(管理者)

氏名 白井 典子

評価完了日 H22 年 8 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事務所に掲示し、日々確認しながら仕事に取り組んでいる。又、年間理念をスタッフで話し合い作成している。 (外部評価) 法人全体の理念と共に、事業所では毎年1月にユニットごとに職員で話し合い「ユニットの理念」を作成されている。年末には、理念が実践できたか振り返るようにされている。今年1階ユニットは「居心地良く安心して生活できるよう信頼関係を築くとともに、行事等を通して楽しく過ごせるようにする」等、3項目を理念に挙げておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日々の挨拶や気軽に立ち寄って頂ける様に、出入りを自由に行っている。又、町内会に加入し、祭りや総会などにも参加したりし、当ホームの祭にも参加してもらっている。 (外部評価) 隣接のお宅の方とは、洗濯物干し時等で顔を合わせたり会話することもよくある。散歩や買い物時には、地域の方が利用者にも声をかけてくださるようになった。地区の小学生が毎年、社会科見学でホームを訪ねてくれており、感想等の手紙が、居間に掲示されていた。近くの高等学校の福祉科の生徒達が、ボランティアで来てくれることもある。今年も、地方祭に神輿が来ることを利用者は楽しみにされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 夏祭り参加してもらい交流の場を設けたり認知症に関する資料を作成し配布したりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>2か月に1回開催し、情報・意見交換などを行って いる。又その内容をミーティングで話し合いサービスの 向上に活かしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>町内会長や地域の方に参加いただき、会議を開催され ている。地域内の他グループホームの職員にも参加し いただき「入居者とスタッフの関係とは」という テーマで意見交換をされた。「徘徊について」話し 合った際には、町内会長から町内のアナウンスが使える ことを教えていただいた。現在、地域の方は、特定 の方だけの参加であり、管理者は、今後「地域のいろ いろな方の参加を働きかけていきたい」と話しておら れた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>連絡会や研修に、随時参加するようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時、市の担当者の方から議題について 「看とり経験のある事業所の方を招いて研修会を行っ てはどうか」と提案していただいた。又、市の実地指 導時には会議の議事録の書式についても具体的にアド バイスをいただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>大まかな拘束内容をスタッフは把握しており、現在も 拘束はない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」 を事務所に掲示されていた。ご家族の中には、ベッ ドからの転倒を気にされて「ベッド柵を付ける」こと を要望される方もあるが、事業所では、利用者の行動 等を把握しながら、職員の見守りで対応できることを 伝え、夜間寝ている間だけ柵を付けることで理解をす ずめていかれた。管理者は今後も、ご家族等の理解を 得られるよう話し合いを続けていきたいと話しておら れた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 関連資料を事務所に掲示し、スタッフは日々確認しながら仕事に取り組んでいる。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前に参加した内容をファイリングし、活用出来るようにしているが、現在のところは該当者なし。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に見学に来てもらい、ご本人・ご家族と面談を行いその際に十分な説明をし納得した上で入居を決めて頂く様にしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者さんと話す場を設け、苦情があった場合はスタッフ会で話し合いケアに活かす様にしている。又、推進会議等に参加してもらい、発言の場を設けている。 (外部評価) 毎月、来訪があるご家族には、口頭でご本人の日々の様子を詳しく伝えるようにされている。介護計画内の家族欄に、混乱を恐れて「あまり外出させないように」と要望される方もあったようだが、ご家族も一緒に外出する等、様子を見ていただきながら話し合い、理解を得られるように取り組まれた。事業所に足遠いご家族には、ホーム便りと別にお手紙等で報告やお知らせ等をされている。ご家族の希望や気持ち等を知るため、近々、ご家族にアンケートを取ることを予定されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>月に一度のリーダー会とスタッフ会を実施し、意見・情報交換を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月スタッフ会では、ケアや業務の中で、職員が気付いたことや提案を出し合い活発に意見交換されている。又、毎月、法人内の全介護事業所のリーダーが集まり、職員からの意見や事業所の課題点等を持ち寄り、意見交換をされている。管理者は「リーダー会は、日頃の悩みを聞いてもらったり相談できるよい機会」と話しておられた。外部研修に新人職員も参加され、認知症について勉強したことがきっかけで、ヘルパー2級の資格を取得することを決めた職員もいた。法人は職員の研修受講に積極的であり、費用面も協力してくれるようになっている。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>努力や実績を把握・考慮した上で昇格・昇給等を行っている。又年に2回自己評価を行い各自の介護の仕事に対する向上を図る様に努めている。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>事業所内で、年間研修を数回計画し実施している。 (外部の方に講師をお願いして)</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>他のホームの推進会議や夏祭りに参加したりしている。又、災害時の受け入れ等について協力できる体制をとっている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>事前にカンファレンスを行い、その際出来るだけ希望・要望を聞き対応する様にしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	<p>事前にカンファレンスを行い、その際に出来るだけ希望・要望を聞き対応する様にしている。</p>
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	(自己評価)	<p>カンファレンス時に、必要支援を把握し入居前にスタッフ全員で話し合い全員が把握した上で出来る限りの対応に努めている。</p>
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>家事全般（調理・裁縫）・家庭菜園などを一緒に行い、その都度色々教えてもらいながら一緒に体感・体験する様にしている。</p>
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>心身の状況・日々の出来事をその都度報告し、意見交換を行っている。又、月に一度手紙を郵送したり、行事に参加したりしてもらっている。</p>
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	(自己評価)	<p>いつでも来訪して頂ける様に、出入りを自由にしている。現在でも月に数回来訪などあり。</p>
			(外部評価)	<p>地元から入居されている利用者もあり、ご近所の方が時々お花や野菜等を持って訪ねて来てくださっている。ご本人の希望で観劇やお墓参り等に出かけられたり、双海へ海を見に出かけた際は「以前に住んでいたことがある」と喜ばれ方もあったようである。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 各利用者の性格を把握した上で、レクなどを有効に活用したり、スタッフが間に入りコミュニケーションが取りやすくなる様にしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) いつでも来訪して頂ける様に、出入りを自由に行っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各自に担当スタッフを配置し、希望・要望が聞ける様な環境を確保している。お墓参りや昔懐かしの場所に行ったりもしている。 (外部評価) 日々の会話の中やご家族からも聞き取り、ご本人の思いの把握に努めておられ「連絡ノート」に情報を書き込んで職員で共有されている。言葉を発することが困難な方には「ジェスチャー」等も交えてコミュニケーションに努めておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前にアセスメントシートで本人から聞き取りを行ったり家族に聞き情報収集を行い、得意分野を活かしたケア・プランを作成している。(習字・生け花・裁縫など)	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタル測定、日中の関わりの中で心身の様子を観察しながら接し、介護記録に細かく記入している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>担当者がプランを計画・作成しリーダーとモニタリングをした後、カンファレンスで全員で話し合い相互の意見交換などを行っている。家族には、プランの月評価を報告し意見交換を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族の来訪時に利用者ご本人の支援についてのご意見や要望を聞き取り、身寄りがない利用者やご家族と疎遠になっているような利用者の支援については、市の福祉課の方に報告や相談をしながら介護計画を作成しておられる。作成された計画は、月1回のスタッフ会で話し合い、モニタリングを行い、3カ月ごとに見直すようになっている。ご本人から「買い物に行きたい」と希望があり、計画に採り入れて取り組みをすすめられた事例があった。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個別にケアプランチェック表を作成し、日々の変化などを個別記録に記入しカンファレンスで話し合い介護計画に繋げている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>系列事業所と情報交換・連携を取り、必要に応じて活用している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>必要に応じて、要請・協力をしてもらっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>内科・歯科と連携を図り、気軽に相談でき治療が受け られる体制を取っている。内科に関しては、定期検査 や24時間対応の連携体制も取れている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>協力医療機関からは週1回の往診があり、24時間いつ でも相談や対応をしてもらえるようになっている。以 前からかかっている病院や精神科等に、職員やご家族 が付き添い、通われる方もある。歯科は、訪問診療を 利用されている方もある。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>看護職員は配置していない為、かかりつけ病院と連携 体制を取っているの必要に応じて、看護師が駆けつ けて対応してくれる。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時は、定期的にスタッフが交代で面会に行きその 際に医師・看護師と意見・情報交換を行い、必要に応 じてカンファレンス等を行っている。又、かかりつけ 医と入院病院との情報交換当の連携体制も図れてい る。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>現状的には、実施経験はないが対応方針は決めており 事前にご家族・ご本人から要望等を聞いている。(書 面に残している)又、かかりつけ医とも話し合っており、 医師の意向もご家族に報告している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時に、ご家族に看取りの希望についてお聞きして いるが「ホームで見てもらいたいが、その時になっ てみないと分らない」と答えられる方が多いようであ る。他介護施設で行われた看取りの研修に、職員が参 加され、ミーティング時に内容を報告された。</p>	<p>現在、事業所では、利用者の重度化に直面されてお り、看とり支援については、職員等の不安や心配ごと もあるようだ。事業所の指針にも基づき、事業所内 でも勉強されたり、医療機関やご家族と協力し合える体 制を作る等、事業所の体制作りをすすめ、職員等の心 配ごを軽減していけるよう取り組みをすすめていか れてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 実技的な訓練は、消防訓練の時などでしか行えていない。対応マニュアルは作成し職員にも周知している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 最低、年に2回の実施を計画・実施しており、いざという時などは、近隣の方が協力してくれる体制が取れている。又、近隣のホームと災害時の緊急協力の連携体制が取れている。	事業所は、2階建のホームで2階部分では特に、いざという時の避難経路や場所、さらに職員の行うべきこと等を具体的に検討されたり、いろいろな場面を想定して訓練を重ねていかれてほしい。又、地域等の協力者を増やしていけるような取り組みも続けていかれてほしい。
			(外部評価) 消防署の立ち会いのもと、昼間の火災を想定し、避難訓練を行った際には「1階と2階の連携が大事」とアドバイスをいただいた。ご近所の方にも訓練への参加をお願いされているが、参加していただくまでには至っていない。夏祭り時に参加いただいた近所の方には、いざという時に協力いただけるよう直接お願いをされた。地域内他グループホームとは、いざという時の避難先として協力し合うようになっている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーに関する申し送りなどは、イニシャルで行い、トイレ誘導の声かけにも配慮する様になっている。更衣の際は、自室ドアを閉めて行う様になっている。	
			(外部評価) 管理者は、ご利用者に接するときは「時間を決めたり、強制せず、職員の都合を押し付けない」ことを職員に話しておられる。調査訪問時には、周りの利用者の方に気付かれないようトイレ誘導されている職員の様子がうかがえた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 外出・買い物などは、声かけを行うが本人の意思に任している。(入浴・食事についても)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事・入浴・起床・就寝などは、本人のペースで行ってもらっている。時には、スタッフペースになっているのも現状。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣時には、本人の好きな物を選んでもらっている。又、本人の希望する散髪・美容室に行ったりもしている。洋服購入時は、本人の好きな物を選んでもらっている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理に関しては、能力に応じて参加してもらっている。配膳・下膳等も自分で出来る方は行ってもらっている。 (外部評価) お好み焼きをお好きな方がおられ、いつでも作れるようキャベツや粉を準備されている。食事作りでは、野菜を切ったり、魚をさばいたり、お好み焼きを焼いてくださる方もある。各ユニットで、職員が一週間ごとの献立を立てるようになっており、2日に1回、利用者も一緒に食材の買い物に出かけておられる。お誕生日にはご本人の希望に応じて、外食されたり、ホーム内で作りお祝いされている。時には、昼食をお弁当箱に詰めて、気分を変えて食事を楽しまれることもあり、利用者も喜ばれるようだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各自の状態を把握した上で、大きさ・固さ・飲み物の種類などを変えている。又、食事量・水分量を個別に記録して対応している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯磨き・うがいを声かけ・誘導する様になっている。就寝時は、義歯を預かり消毒する様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターン・サインを把握し、声かけ・誘導を行う様になっている。 (外部評価) 介護度が重度の利用者が多く、現在は、おむつや紙パンツを使用している利用者が多いが、声かけや誘導でできるだけトイレで排泄できるよう取り組みをすすめておられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 基本的には、自然排便を心がけている。牛乳・ヨーグルトなどを摂取してもらったりして、なるべく下剤使用の回数を減らす様になっている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決めてないが、定期的な声かけ・誘導を行っている。自立している人に関しては、本人の希望する時間帯に入浴してもらっている。 (外部評価) 毎日入浴される方や入浴を嫌がるような方にも声かけしたり、タイミングをみて、週に2日は入浴できるよう支援されている。すべての介助を要する方もいるが、職員2名体制で湯船で温まってもらえるように支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 基本的には、起床・就寝時間は決めておらず本人の希望に合っている。昼寝等も、本人に合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別に処方箋をファイリングし、症状の変化時には医師に連絡し支持をもらい対応している。又、服薬変更に関しては、別にノートを作り記録し送りやりで情報交換している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴を把握した上で、個々の得意分野に応じて役割作りをし、実施・支援している。(庭の手入れ・畑作業・亀の世話裁縫・家事への参加)	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 当日に言われても対応出来る様にはしている。毎月、行事計画をし実施している。スタッフだけで対応出来ない場合は、ご家族にも協力してもらっている。 (外部評価) 月1回は、計画を立てて花見や山、海等へ外出されている。管理者は「年間スケジュールを立て、担当を決めて取り組み、今年から職員を増やしたこともあり、重度の方も昨年よりは外出する機会が増えたと思う。」と話されていた。ご利用者の希望で近くの公園に散歩に行かれたり、近所の美容室でカットされる方もいる。	外階段に設置されている昇降機やベランダからのらせん状の階段等を利用して上がり降りするようになっていく2階ユニットの利用者については、ご自分で外に出ることが難しい面もあり、意向等もうかがいながら外出するような機会を増やしていかがってほしい。利用者からは「お茶でも飲みに出かけたい」というような希望も出ているようだ。日常的にちょっと出かけて楽しむような機会を大切に、取り組みをすすめていかがってほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理出来る方には、お小遣いを所持してもらい買い物時には自分で支払いをしてもらっている。大半は、ホームで管理している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 基本的には、自由に電話などは出来る様な体制をとっている。手紙なども自由にしてもらい、代行しポストに入れることなどもしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共有スペースには、手作りのカレンダーや利用者さんが書いてくれた習字などを掲示している。玄関先にベンチなどを置き、利用者が休憩できる様にしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関には、菊やケイトウの花を生けておられた。玄関入口で犬を飼っておられ、利用者は、なでたり餌をやったりお世話をされていた。台所が中心にあり、その周りに居室がある造りになっている。2階ユニットでは、ご本人がさみしいようで、居間にベッドを置いて休む方もあった。庭の畑やベランダのプランター等で、利用者が野菜やお花を育てておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ホールのソファなどは、定期的に配置を変えたりして自由に座ってもらっている。玄関付近に椅子を置き、利用者同士が自由に談話出来る様にしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に馴染みの物や使い慣れた物を持参してもらっている。物の位置を変える時は、本人とご家族に相談して行う様にしている。（タンスや仏壇・ご自分で書かれた習字を持参されている方もいる）</p> <p>(外部評価)</p> <p>テレビやご自宅で使っていたタンスを持って来られていたり、写真やカレンダーを飾っているおられる方もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>自室の入り口には、各自表札を掛けている。又、廊下の手すりなども高さを変えたり、トイレ・浴室のすりも増やしたりし対応している。外階段には、昇降機を設置し身体機能が低下しても対応出来る様にしている。</p>	